

本年度 8 月の理事改選において、新しく 牧野 健 理事が会長に就任し、新体制により、事業の展開が図られた。さらに新しい事務局組織により、各事業充実への足がかりを構築した。各専門部会により、グライダー安全運航上の問題解明、解決に向けてより一層の努力が行われた。さらに、国内の各選手権大会など、競技会の主催、支援を実施した。国際競技会への選手選考、派遣を実施し、同年度中に行われた世界滑空選手権において、上位入賞の好成績がもたらされた。一方、各地会員の協力により、地域活動の拠点としての滑空場の運営、開発を推進、小、中、高校生への飛行活動啓蒙を実施している。

1. 滑空機の改良および整備

A. 滑空機の技術情報の収集および配布

全国の滑空機の運用状況を調査し、現状把握、情報更新を行った。

B. 滑空機関連機材の開発運用に関する支援

引き続き、初級滑空機の調査、開発を行った

2. 指導者の養成

A. 指定航空従事者養成施設の運営

各訓練所において、規程に基づき、教官教育を実施した

自家用操縦士について、同年度内に 7 コース合計 19 名を合格とした。

B. 滑空機公式立会人および滑空記章試験員の研修、推薦

滑空機公式立会人については、(財)日本航空協会に対し、同年度中 4 名の推薦を行った。

滑空記章試験員については、(財)日本航空協会に対し、同年度中 6 名の推薦を行った。

3. 選手権の開催並びに国際大会への選手派遣

A. 平成 15 年度 (第 19 回) 日本滑空選手権大会の主催

a. 18m 級、スタンダード級 (本年は 15m 級、オープン級出場者がなく、左記の 2 クラスの競技となった)

b. 会期：平成 15 年 4 月 3 日～同 4 月 6 日

c. 場所：(社)日本グライダークラブ 板倉滑空場 (平成 15 年度スポーツ振興基金助成事業)

d. 成績：以下の通り

18m 級 (出場機数 6 機)		日本選手権者：澤田 美紀子				
順位	氏名	国籍登録記号	型式	総合得点	備考	
第 1 位	澤田 美紀子	JA2332	ASW-20C	1579		
第 2 位	森中 玲子	JA09DG	DG-800A	1482		
第 3 位	鳥居 陽生	JA22RE	LS-8-18	1457		

スタンダード級 (出場機数 6 機)		日本選手権者：廣常 朱美				
順位	氏名	国籍登録記号	型式	総合得点	備考	
第 1 位	廣常 朱美	JA221M	LS-8	1845	文部科学大臣賞	
第 2 位	田上 研之	JA2427	Discus b	1811		
第 3 位	伊藤 寿	JA2494	LS-4	1734		

* 本年度のクラブ級選手権、女子、ジュニア選手権はいずれも開催せず。

B. 第41回全日本高等学校滑空選手権大会の共催（主催：日本高等学校滑空連盟）

会期：平成15年8月1日～同8月3日

場所：日本航空学園・葦崎滑空場

参加校：日本航空高等学校

参加選手数：

成績：第一部	優勝	渡真利 康倫	（日本航空高等学校）
	準優勝	市川 宋将	（日本航空高等学校）
第二部	優勝	久保田 雄三	（飛龍高等学校）
	準優勝	中村 綱太	（日本航空高等学校）

C. 国際競技会への選手派遣

a. 第28回世界滑空選手権

場所：ポーランド・レシノ飛行場

期日：2003年7月27日～同8月9日、14日間開催

日本からは、市川 展選手が出場し、スタンダードクラス全選手44名中5位に入った。世界のなみいる強豪に伍しての好成績であり、日本が世界レベルに達した証となった。

b. 第2回女子世界滑空選手権大会

場所：チェコ・Jihlava 滑空場

期日：2003年5月17日～同6月1日、14日間開催

日本からは、廣常 朱美選手が出場し、スタンダードクラス12位であった。

D. 競技会の後援

下記の競技会を後援した。

a. 霧が峰グライダー競技会

b. 第44回全日本学生グライダー選手権大会

会期：平成16年3月6日～同3月14日

場所：（財）日本学生航空連盟・妻沼滑空場

個人成績	第1位	寒梅 宏起	（日本大学）
	第2位	新井 秀樹	（日本大学）
	第3位	奥村 仁	（立命館大学）

団体成績	第1位	日本大学Bチーム
	第2位	慶応大学Bチーム
	第3位	早稲田大学LSチーム

c. 国立7大学総合体育大会グライダー競技会

会期：平成16年3月17日～同3月22日

場所：NPO法人 関宿滑空場

団体成績	第1位	名古屋大学
	第2位	東北大学
	第3位	京都大学
個人成績	第1位	谿 有紀（名古屋大学）
	第2位	宮木賢宏（東北大学）
	第3位	堀米克弥（東北大学）

- d. 東京六大学対抗グライダー競技会
会期：平成 15 年 8 月 24 日～同 8 月 31 日
場所：(財) 日本学生航空連盟・妻沼滑空場
- | | | |
|------|-------|--------------|
| 団体成績 | 第 1 位 | 慶応大学 |
| | 第 2 位 | 立教大学 |
| | 第 3 位 | 法政大学 |
| 個人成績 | 第 1 位 | 五十嵐健大 (慶応大学) |
| | 第 2 位 | 加藤勇人 (立教大学) |
| | 第 3 位 | 山野澄人 (法政大学) |

- e. 第一回 関関同立対抗グライダー競技会
会期：平成 15 年 11 月 10 日～同 11 月 13 日
場所：(財) 日本学生航空連盟 木曾川滑空場
- | | | |
|------|-------|--------------|
| 団体成績 | 第 1 位 | 立命館大学 |
| | 第 2 位 | 関西大学 |
| | 第 3 位 | 同志社大学 |
| 個人成績 | 第 1 位 | 山下良範 (立命館大学) |
| | 第 2 位 | 山崎 努 (関西大学) |
| | 第 3 位 | 好永将浩 (関西大学) |

4. 滑空スポーツの普及活動

A. 滑空セミナー

同年度中、滑空スポーツに関する講演会を次の通り実施した：

- 国内初の滑空機による 1,000km 無着陸飛行、ほか (市川博一、丸山 毅、平成 15 年 7 月 26 日)
- ポーランドでの世界選手権参加報告 (市川 展、平成 15 年 11 月 23 日)

B. 子どもグライダー体験教室 2003 (子どもゆめ基金助成金、スポーツ振興くじ助成金各事業)

天候等により開催日変更を余儀なくされたが、同年度中 4 回 (栃木県 2 回、長野県 2 回) 実施できた。反響は大きく、参加者数も定員に達してしまうほどであった。子どもたちに対して、空を飛ぶことを通して、自然科学に対する興味と、安全に対しての自覚や責任感を養うことが出来た。今後も継続する予定である。

5. FAI 滑空機関連業務支援

A. 国内滑空記章申請、受付ならびに交付業務

平成 15 年 1 月 1 日から同 12 月 31 日までの各章交付数は次の通り：

A 章：62 件、B 章：47 件、C 章：36 件、銅章：31 件

B. 本年度の IGC 委員は、当協会国際委員長の市川 展氏が昨年に引き続き委嘱となった。

6. 滑空機検査業務に関する調査及び支援

航空機としての滑空機の耐空性を検査する業務について、(財) 日本航空協会 滑空機検査事務局への協力を行った。

7. 各種公認事業

滑空機の写真を全面的に取り上げた「We Love Soaring」カレンダー (エアワークス制作、発売) を公認した。

8. その他

A. 当協会機関紙である「JSA Information」は No.254～No.259 を刊行した。

B. 平成 15 年 5 月 24、25 日に能登空港で行われた「スカイ・レジャー・ジャパン03 イン能登」では、他の航空機の展示飛行に交じって、当協会曲技飛行委員会メンバーおよびその保有機による滑空機の華麗な曲技飛行が披露され、多数観衆にアピールした。

9. 専門部会の活動

A. 総務委員会

年度半ばでの常務理事の交代に伴い、事務局体制の補強を実施した。

B. JSA Information 編集委員会

わが国の数少ない滑空関係情報源として、JSA Information 誌のより一層の質的、内容向上を目指して活動を行った。

C. 競技委員会

日本選手権大会、その他の競技会の実施立案、参加資格認定、競技規定、参加資格規定などを検討し、答申した。また、競技、記録飛行を主題とした講演会をのべ2回実施した。

D. 指定航空従事者養成施設運営委員会

国土交通省航空局の委託により、全国の滑空愛好者向けに滑空機操縦技能証明の取得コース実施（第2項参照）。

E. 技術委員会

最新の耐空性基準「JAR-22」の解析に着手した。

F. 滑空場委員会

a. 全国の滑空場情報の整理に着手した。

b. 国土交通省航空局に対し、滑空機の利用空域に関する調整ならびに申し入れを実施した。

G. 曲技飛行委員会

「SLJ イン能登'03」をはじめ、各地の航空関連行事において、滑空機による曲技飛行の展示を行い、さらに、基礎的な曲技飛行の講習会および飛行中に起こる機体の異常な姿勢からの回復訓練および講習を実施した。

H. 国際委員会

IGC 委員に市川 展氏、FAI 医事委員に嶋田 和人氏を推挙、わが国代表としての今後の活動が期待される。

10. その他

A. 国際交流

平成 15 年 11 月 20 日～同 11 月 29 日、中華人民共和国より、中国航空運動協会（ASFC）の合計 10 名による視察団が来日、滞在し、滑空関係では関東各地および長野の滑空場、クラブへの訪問、見学を行い、相互の情報交換を行い、交流を深めた。

B. 航空安全講習会

自家用操縦士 5 団体（（社）日本航空機操縦士協会、NPO AOPA-Japan、全国自家用ヘリコプター協議会、（社）日本滑空協会）による「技量維持連絡会」により、国土交通省航空局通達による「航空安全講習会」実施にむけての各種条件の整備を行った。

11. 平成 15 年度の各種助成金

A. スポーツ振興くじ助成金：「スポーツ活動推進事業」（グライダー教室、スポーツ情報提供事業）

B. 子どもゆめ基金助成金：「子どもグライダー体験教室 2003」

C. スポーツ振興基金助成金：「競技会開催」（スポーツ普及事業、第 19 回日本滑空選手権）

D. （財）日本航空協会助成金

12. 平成 15 年度において開催された事務局主催の会議は、下記の 5 回であった。

理事会 3 回（平成 15 年 6 月 21 日、同 7 月 30 日、平成 16 年 3 月 19 日）

総 会 2 回（平成 15 年 6 月 21 日、平成 16 年 3 月 19 日）